

新薬「アバスチン」

大腸がん 血流妨げ縮小

関東地方の50歳代の男性は今年春、大便に血液が付いているのに気づき、近くの病院で大腸がんと診断された。がんは肝臓にも転移しており、手術では取りきれないと言われた。紹介された癌研有明病院（東京都江東区）で、新薬の「アバスチン」（一般名ベバシズマブ）など計4種類の薬による治療を始めた。大腸のがんは縮小し、治療から半年たった現在、自宅周辺を散歩するなど生き生きとした生活を送っている。（坂上博）

大腸がんの年間死亡者数は約4万人で、女性はがん死の1位、男性は4位だ。早期に発見すれば、手術や内視鏡などでがんを切除でき、ほぼ100%完治する。しかし、患者の2、3割は、発見が遅れて肝臓や肺などに転移したり、再発したりして、手術などで完治させるのが難しい「進行性大腸がん」。その時、選択されるのが複数の抗がん剤による治療だ。

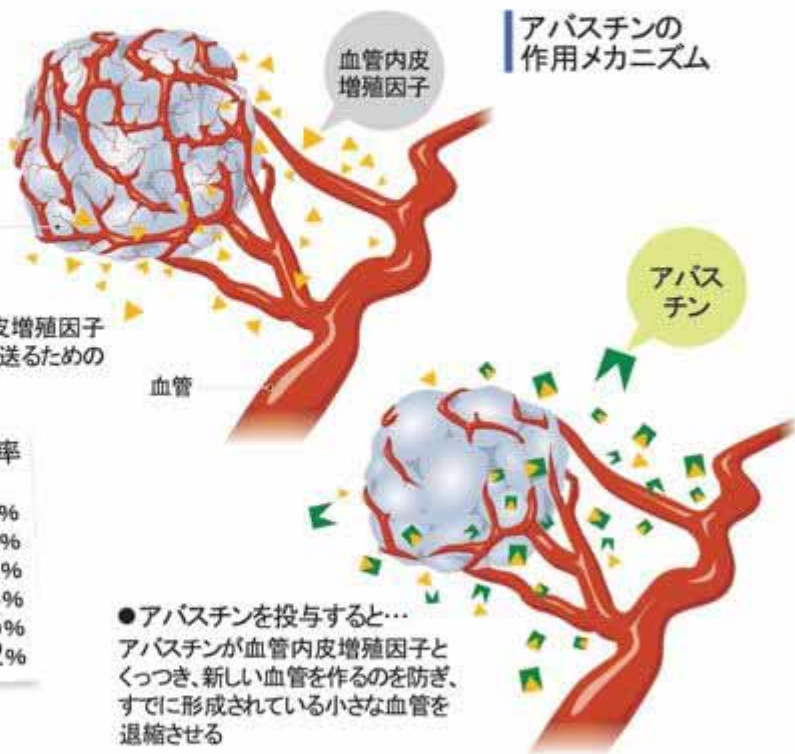
治療成績は必ずしも満足できるものではなかったが、今年4月、これまでの抗がん剤治療よりは効果が高いというデータから、新薬のアバスチンが承認された。

がんが作り出す血管内皮増殖因子という物質の働きで、がんに栄養を送るための新しい血管が作られる。この薬は、この物質にくっついて働きを止め、血管ができるのを防ぐなどして、がんを小さくする。分子レベルで働くので、分子標的薬と呼ばれる。



抗がん剤
アバスチン

● 進行中の大腸がん
がんが作り出す血管内皮増殖因子の働きで、がんが栄養を送るための新しい血管が作られる



アバスチンの
作用メカニズム

アバスチン特有の主な副作用発症率
国内外の研究による

高血圧	20~40%
尿からたんぱくが出る	10~40%
心筋梗塞や脳梗塞など	2~9%
皮膚の傷などが治りにくい	2~8%
がん周辺からの出血	2~5%
胃や腸に穴が開く	1~2%

● アバスチンを投与すると…
アバスチンが血管内皮増殖因子とくっつき、新しい血管を作るのを防ぎ、すでに形成されている小さな血管を退縮させる



抗がん剤「5-FU」
を投与するための
携帯型ポンプ

大腸がんに対する抗がん剤治療の奏効率
がんの直径が3割以上小さくなる患者の割合。国内外の研究による

5-FU + アインボリン		約20%
5-FU + アインボリン + エルプラット (FOLFOX)		30~40%
5-FU + アインボリン + イリノテカン (FOLFIRI)		30~40%
5-FU + アインボリン + エルプラット + アバスチン		40~50%
5-FU + アインボリン + イリノテカン + アバスチン		40~50%

抗がん剤の「5-FU」、その働きを強める「アイソボリン」、比較的新しい抗がん剤の「エルプラット」または「イリノテカン」の計3種類の薬による治療法に、FOLFEX（フォルフォックス）とFOLFIRI（フォルフィリ）（ともに3種類の薬の頭文字による略称）がある。アバスチンは一般的に、この二つの治療法に加える4番目の薬として使われる。

2週間に1度または2度の通院時に、アバスチンを含む三つの薬を2時間～3時間半かけて点滴。5-FUは携帯型ポンプを使って1日または2日かけて、ゆっくりと体に注入する。

この治療の奏効率（がんの直径が3割以上小さくなる患者の割合）は40～50%。1990年代まで標準的な治療法だった5-FUとアイソボリンによる治療や、2005年から可能となったFOLFEXだけの治療などに比べて奏効率は高い。海外の研究では治療後の平均的な生存日数はFOLFEXだけで16か月ほどだが、アバスチンを加えると20～21か月に延びた。

1か月の薬剤費だけで約60万円と高額だが、保険で認められ、多くは高額療養費制度が適応されるので、年収にもよるが自己負担は月8万円ほどだ。

癌研有明病院化学療法科副部長の水沼信之さんは「アメリカの大腸がん治療指針では、アバスチンを含む抗がん剤治療は、手術できない転移または再発した大腸がんに対する標準的な治療になっている」と話す。日本の治療指針も、アメリカにならって改訂される予定だ。

ただし、アバスチンには一般的な抗がん剤と異なる特有の副作用があるので注意が必要だ。血圧が上がったり、胃や腸に穴が開いたり、がん周辺などで出血しやすくなったりするので、〈1〉心筋梗塞（こうそく）や脳梗塞の既往がある〈2〉大きな手術を受けて間がない〈3〉胃かいようがある〈4〉脳に転移がある——などの患者は、医師に相談してほしい。

アバスチンの使用法に習熟した病院で治療を受けることが望ましい。例えば、がん治療経験が豊富な「がん診療連携拠点病院」は、国立がんセンターのホームページ（http://ganjoho.ncc.go.jp/pub/hosp_info/hospital01/index.html）で調べることができる。

ただし、アバスチンを含む抗がん剤治療で、大腸がんを完治させることはできない。重い副作用の危険性もあるので、慎重に治療法を選ぼう。

（2007年12月14日読売新聞）